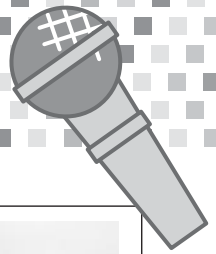


新規採用教員へのインタビュー



古市 明歩 ふるいち あきほ

県立岡山盲学校教諭
(令和3年度採用)

自己紹介

昨年4月に特別支援学校教諭として採用され、今年度は小学部5年生の担任をしています。休みの日は映画を見たり、友達とカフェにいたりして過ごしています。いろいろなところに旅行に行っておいしいものを食べることも好きです。今行きたいところは鹿児島なので、コロナが落ち着いたらぜひ行きたいと思っています。

Q 教員を目指した理由を教えてください。

高校の時、小学校からの友達が特別支援学校に通うことになり特別支援に興味を持ちました。自分にも何かできることがないかと思い、また、専門的な知識をつけたいと思うようになりました。高校2年生の時から、地域の話しサークルにも参加していました。聴覚障害のある方と話すことを通じ、手話を身につけていき、より専門的に学んでいきたいと思うようになりました。

ることに興味が出てきて、教員に向いているのかなと思うようになっていきました。

Q 教員としてのやりがいや苦労について教えてください。

子どもたちが、できなかったことができるようになったり、点字検定などの記録が伸びたりするとやりがいを感じます。

「見えにくい」子どもにどうやって教えるかを考えるのは苦労しました。特に、算数の図形やグラフなども、手で触って読み取れないといけないので、そのためどんな教材を作ったらいいか、悩みました。

点字の教科書ではどんな風に表現されているのか、普通の教科書と読み比べたりしながら、どれだけその子どもに合った教材を作れるか、試行錯誤しました。学習指導要領に沿いつつ、教科書のままで難しいところは工夫をして分かりやすく教えられるよう、気をつけています。そうやって毎時間の授業を考え、教材研究をするのは大変ですが、とても楽しいです。休み時間にも、子どもたちと鬼ごっこなどいろいろな遊びを楽しんでいます。ただ、少人数の授業なので対話的な学びなどの経験はどうし

ても少なくなるのが課題だと感じています。また、読解力は他の子どもと変わらなくても、耳からだだけの情報では体験が少なく、語彙力が少なくなりやすい。どの教科でも体験をしたり、いろいろな人と関わったりすることが大事だと思っています。

Q 目指す教員像を教えてください。

一人一人の子どもに合わせた指導のできる教員です。障害のあるなしにかかわらず、どれだけ一人一人に合わせた指導ができるかが大切だと思っています。

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

面接と模擬授業の対策に特に力を入れました。大学が県外だったのですが、同じ岡山県の特別支援教員を受験する友達がいたので、毎日互いに問題を出し合いました。面接、模擬授業は、同じゼミの仲間同士で、オンラインや対面で練習をしました。それぞれ受験する県はバラバラでしたが、その分いろいろなパターンに対応する練習になりました。模擬授業は教科書(知的障害のある児童が使用する教科書)を用意し、どの単元が出題されても対応できるように、何度も実践的な練習を重ねました。生活単元学習の模擬授業も、児童の障害の程度を踏まえたうえで、いろいろな場面に対応できるように準備しました。

大学3年の2月くらいから、筆記試験の勉強をしました。4年の4月から一次試験の勉強、一次試験が終わったら二次試験の練習を始めました。

筆記試験の勉強には、学習指導要領を読み込みました。ただ覚えるだけでなく、自分の言葉でまとめたり、情報を書き加えたりしながらノートにまとめたりしていました。参考書も使用しましたが、友達のものとの交換し合ったりして、いろんな問題に対応できるようにしていました。

Q 休みの日は、どんなことをして過ごしていますか？

土日は、友達とご飯に行ったり、映画を見たり、しっかりとリフレッシュするようにしています。仕事は家に持ち帰らないよう心がけています。

ライブや旅行に行くのも好きなのですが、コロナ禍で行けていません。

Q 最後に、是非伝えたいことはありますか？

盲学校で、視覚障害のある児童に教えるということは、新たな発見がたくさんあるのでとても楽しいです。児童数も少なく、一緒にいる時間も長いので、一人一人に寄り添った指導ができます。盲学校に興味を持ってほしいです。